

湊川女短大 倉元綾子

【目的】『家事研究』誌は奈良女子高等師範学校家事研究会の編集によって、目黒書店から発行された。『家事研究』誌はこれまで十分に検討されることが少なかったが、戦前家事裁縫教育研究において重要な位置を占めていた奈良女子高等師範学校における教育研究内容を知るひとつの手がかりになると思われる。そこで、これについて検討し、若干の知見をえたので報告する。

【方法】『家事研究』誌の目次、内容について調査した。

【結果】その結果、以下の点が明らかになった。

- (1)『家事研究』誌は1920年(大9)4月に創刊され、1930年(昭5)12月まで月刊で、1931年(昭6)から1938年(昭13)まで年一回刊で発行され、少なくとも136号が発行された。
- (2)当初、口絵、論纂、研究、雑纂、抄録及び紹介、時事によって構成されたが、終刊までのあいだに数回の編集法の変更がみられる。各号は約130ページであった。
- (3)掲載された論文は所謂家事裁縫に関わるものにとどまらず、思想・婦人・社会事業・社会福祉・公衆衛生・園芸など、幅広い内容を扱っている。
- (4)『家事研究』誌の執筆者の多くは石沢吉磨、錦織竹香、木下竹次、真田幸憲、槇山栄次、桑野久任など奈良女子高等師範学校関係者であった。また、その他の執筆者の中には沢村真、棚橋源太郎、下田次郎、大江スミ子、近藤耕蔵、本野精吾、藤原九十郎など当時の有数の教育者・研究者がいた。
- (5)『家事研究』誌の刊行は石沢吉磨の尽力に負うところが大きかったと思われる。石沢は毎号欠くことなく執筆し、時には数本を掲載するなど、きわめて精力的であった。